



北海道大学

北海道大学大学院医学院 MPHコース 説明会

北海道大学 大学院医学研究院
公衆衛生学教室

教授 玉腰暁子

tamaa@med.hokudai.ac.jp

2017.6.24 北大

2017.6.25 品川

公衆衛生 (Public Health) とは C. Winslow 1920

- 環境衛生の改善, 伝染病の予防, 個人衛生の原理にもとづく衛生教育, 疾病の早期診断と予防的治療のための医療および看護業務の組織化, さらに地域社会のすべての住民が健康を保持するにたる生活水準を保障するような社会機構の発展を目指して行われる地域社会の努力を通じて, 疾病を予防し, 生命を延長し, 健康と人間的能率の増進をはかる科学であり, 技術である



北海道大学の基本理念

フロンティア精神：学生及び教職員がそれぞれの時代の課題を引き受け、敢然として新しい道を切り拓いていくべきとする理想主義

国際性の涵養：欧米の文化と科学技術を導入し、外国人教師の英語による授業を行った札幌農学校は、設立当初から多様な世界にその精神を開いていた

全人教育：札幌農学校は、農業専門家の養成に止まらず、豊かな人間性と高い知性を兼ね備え、広い教養を身につけた人間の育成を図った

実学の重視：現実世界と一体となった普遍的学問の創造としての研究と、基礎研究のみならず応用や実用化を重んじ研究成果の社会還元を重視する

北海道大学：平成38年に創基150年

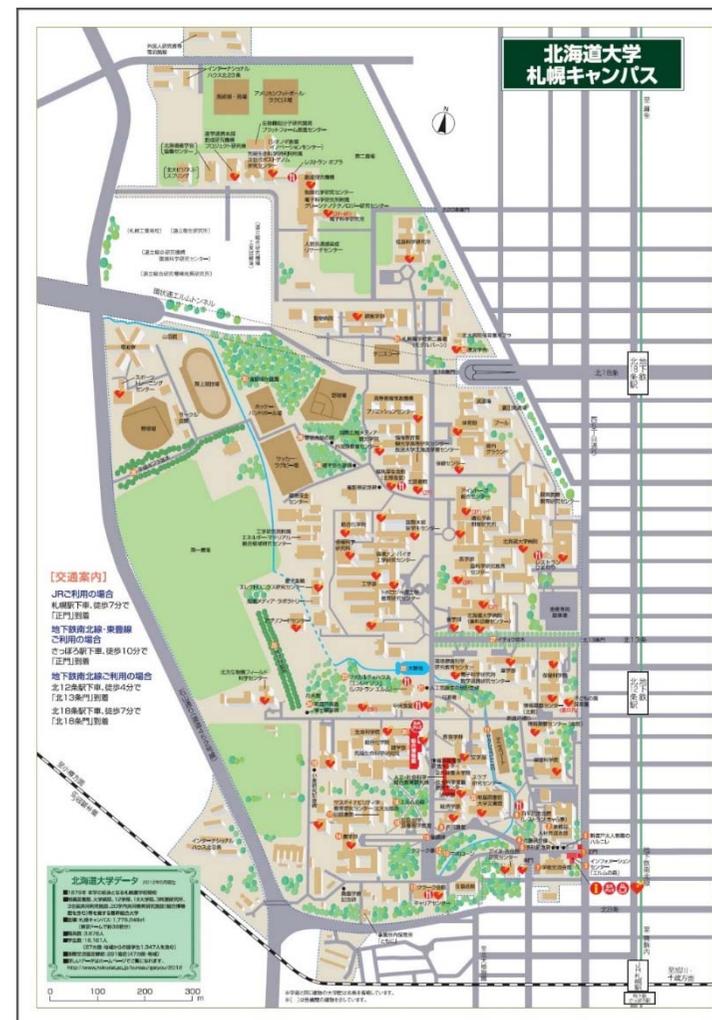
医学部：平成31年に創立100周年

北海道：平成30年に命名150年



北大キャンパス

1876年開校
現在：12学部、18大学院
(国立大学最多)



養成する人材像

- 北海道大学の4つの基本理念（フロンティア精神，国際性の涵養，全人教育，実学の重視）及び医学院の理念（世界をリードする先進的医学研究の推進，高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献）の下，医学・生命科学・社会医学（公衆衛生学）に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材，ならびに健康および安全に対する多様かつ広範な地域社会または国際社会の要請に応えることのできる広くかつ高い見識を備えた人材の養成を教育目標とする。

医科学専攻修士課程

- 医学院の教育目標に基づき，医学・生命科学・公衆衛生学領域の研究者や教育者として，医療・公衆衛生関連分野の高度専門職業人として，あるいは保健医療や保健政策マネジメントなどの専門家として，それぞれの領域において貢献をなす活動を将来独自で行えるための基礎的知識と基礎的技能を有した人材を養成する。



1年コース/2年コース

2年コース：社会全体ならびに人々の健康と生活，安全の維持・向上のために，公衆衛生上の諸課題に対し，幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする

1年コース：一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として，医療・公衆衛生領域で活躍できる高度専門職業人を1年で育成することを目的とする

- (1) 大学における医学，歯学又は6年制の薬学を履修する課程を卒業し，医師，歯科医師又は薬剤師として，2年以上の実務経験（臨床研修の期間を含む。）を有する者
- (2) 本学院において，個別の審査により，上記（1）に相当すると認められた者

修得する能力

- 社会全体ならびに人々の健康と生活、安全にとって必要なシステム・ルールを理解できる。
- 社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の実態とその維持・向上に必要な情報を入手できる。
- 入手した情報を科学的に吟味解釈し、結果を関係各所に発信できる。
- 情報が不足している場合には、自らその情報を得るために行動できる。
- 得られた結果から、必要な対策を立案できる。
- 対策を実施するために関係各所と必要な調整ができる。
- 実施した対策の結果を評価し、次の対策につなぐことができる。



教育カリキュラム（青字は2年コースのみ）

共通コア科目

基本医学研究概論
 基本実験・研究計画法
 医倫理学序論
 トランスレーショナルリサーチ概論

必修科目I

基礎疫学
 基礎生物統計学
 基礎社会行動科学
 基礎保健医療管理学
 基礎環境保健学

基礎医学概論

臨床医学概論

必修科目II

公開発表演習
 研究発表技法Ⅰ
 研究発表技法Ⅱ
 基本公衆衛生学研究Ⅰ
 基本公衆衛生学研究Ⅱ

選択科目

応用疫学
 応用生物統計学
 応用社会行動科学
 応用保健医療管理学
 応用環境保健学

30単位以上修得

+修士論文または特定の課題についての研究の成果
（1年コース）に関する審査及び試験に合格



ディプロマポリシー

- 社会全体及び人々の健康と生活・安全に必要な仕組みを理解し，公衆衛生学上又は予防医学上の諸課題の解決に必要な情報の収集・分析により，健康の維持増進に向けた対策を立案するとともに，これを円滑に実施し，得られた結果を適切に評価することにより，新たな課題を次の対策につなげて持続的に公衆衛生学領域の発展に寄与する能力



キャリアパス

- 行政機関（国・自治体・国際機関）、企業・団体の健康管理部門における公衆衛生学の専門家
- 医療機関における高度な公衆衛生学の知識を有する医師・歯科医師など



関連教室

- 衛生学教室
- 公衆衛生学教室
- 医療政策評価学教室
- 医学統計学教室
- 医学教育・総合診療医学教室
- レギュラトリー・サイエンス教室
- 先進医療マネジメント学教室
- 法医学教室（2018年度から）



*出願前にご連絡ください

